

2020 年度 (令和 2 年度)

学校評価自己評価表

大門 中学校区 校番 25 福山市立 大津野小 学校

最終更新日 2020年(令和2年)10月1日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども主体の活動を推進する。 毎月OPTの取組の成果がよくわかり、質の向上を期待しています。 学力向上及び体力の向上の取組はよくわかります。家庭や地域へ情報発信を期待しています。 業務改善により時間を生み出してください。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 人の役に立とうとする気持ちが育成されつつある。 自尊感情は伸びてきたが、主体的に行動する力は弱い。 基礎的な内容は定着してきているが、思考力・表現力が弱い。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感力</p> <p>自ら考え、学び、表現し、自尊感情の高い生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びに向けた授業を創る。 レーダーチャート等を活用し、学級力や自尊感情を高める取組をする。(年3回アンケート実施) 「ワーク・ライフ・バランス」を意識した働き方を進める。
--	---	--	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>見えない「人間の根っこ(学問・社会性)」を育てる</p>	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</th> <th>課題発見・解決力</th> <th>思考力・判断力・表現力</th> <th>主体性・積極性</th> <th>共感力</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">めざす子ども像</td> <td>1・2年</td> <td>自分で疑問や課題を見つけ、生活体験や既習事項をもとにして解決しようとしている。</td> <td>生活体験や既習事項から順序立てて自分の考えを持ち、絵や言葉、動作などを駆使して表現している。</td> <td>自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。</td> <td>身近な人に温かい心で接している。</td> </tr> <tr> <td>3・4年</td> <td>疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決している。</td> <td>生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えを持ち、絵や言葉、動作など適切な方法を選択し、表現している。</td> <td>集団の中で、自分がやるべきことに気付き、進んで行動している。</td> <td>相手の気持ちを考え、行動している。</td> </tr> <tr> <td>5・6年</td> <td>疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。</td> <td>生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えを持ち、目的や意図に応じて、論理的に説明したり、適切な方法を選択したりして表現している。</td> <td>集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標を持ち、自分から行動している。</td> <td>相手を思いやることの大切さに気付き、相手の立場を尊重し、行動している。</td> </tr> </table>	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)		課題発見・解決力	思考力・判断力・表現力	主体性・積極性	共感力	めざす子ども像	1・2年	自分で疑問や課題を見つけ、生活体験や既習事項をもとにして解決しようとしている。	生活体験や既習事項から順序立てて自分の考えを持ち、絵や言葉、動作などを駆使して表現している。	自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。	身近な人に温かい心で接している。	3・4年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決している。	生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えを持ち、絵や言葉、動作など適切な方法を選択し、表現している。	集団の中で、自分がやるべきことに気付き、進んで行動している。	相手の気持ちを考え、行動している。	5・6年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。	生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えを持ち、目的や意図に応じて、論理的に説明したり、適切な方法を選択したりして表現している。	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標を持ち、自分から行動している。	相手を思いやることの大切さに気付き、相手の立場を尊重し、行動している。
育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)		課題発見・解決力	思考力・判断力・表現力	主体性・積極性	共感力																		
めざす子ども像	1・2年	自分で疑問や課題を見つけ、生活体験や既習事項をもとにして解決しようとしている。	生活体験や既習事項から順序立てて自分の考えを持ち、絵や言葉、動作などを駆使して表現している。	自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。	身近な人に温かい心で接している。																		
	3・4年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決している。	生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えを持ち、絵や言葉、動作など適切な方法を選択し、表現している。	集団の中で、自分がやるべきことに気付き、進んで行動している。	相手の気持ちを考え、行動している。																		
	5・6年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。	生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えを持ち、目的や意図に応じて、論理的に説明したり、適切な方法を選択したりして表現している。	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標を持ち、自分から行動している。	相手を思いやることの大切さに気付き、相手の立場を尊重し、行動している。																		
<p>学校教育目標</p> <p>大きく広げる知識 積み上げる伝統 のぼす体力</p>	<table border="1"> <tr> <td>研究</td> <td>教科等</td> <td>国語科・特別活動</td> </tr> <tr> <td></td> <td>主題・内容等</td> <td>関わり合い、認め合い、主体的に学び続ける授業づくり ～課題発見・解決学習と協働の学びを通して～</td> </tr> </table>	研究	教科等	国語科・特別活動		主題・内容等	関わり合い、認め合い、主体的に学び続ける授業づくり ～課題発見・解決学習と協働の学びを通して～																
研究	教科等	国語科・特別活動																					
	主題・内容等	関わり合い、認め合い、主体的に学び続ける授業づくり ～課題発見・解決学習と協働の学びを通して～																					
<p>現状</p> <p>〈児童生徒〉 ○学級会議や全校集会、いろいろな表彰等を通して、学級力や自尊感情が高まり、考えて動く児童が増えてきた。 ○遊び等を通じた運動量の確保をし、楽しみながら体力向上が図れるようになってきた。 △基礎学力・活用力が低く、周りの状況を見て自分で判断して、行動できる力はまだ弱い。</p> <p>〈授業〉 ○教科領域等の関連を図り、児童の疑問ややってみたいゴールを大切にしながら単元づくりを通して、児童の学習に対する意欲が高まってきた。 △手法に捉われ目的を明確にした協働的な学びが行われていない。 △教師主導の授業も多く、児童一人一人の主体的な学びの保障が十分できていない。</p>	<p>めざす授業の姿</p> <p>児童が関わり合い、認め合い、主体的に学び続ける授業</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を発見し、学びに連続性のある授業 児童が互いに学び合い、「わかった」「できた」「学びが深まった」と実感できる授業 																						

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 大津野小 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
1	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	★	見直し	国語科・算数科における基礎学力の向上と「見直し」と「振り返り」のある主体的な学びの創造【課】 【思】	教科・領域をつないだ単元づくりをする。	・国語科・算数科の授業は「よくわかる」「楽しいと感じる」質問項目に対する肯定的評価80%以上にする。【児童アンケート】	□質問項目に対する肯定的評価は、授業は「よくわかる」95%「楽しいと感じる」90%。 □CMデーを活用し、毎月一回教科領域を結んだ単元づくりや、見直しを行った。	3	3	・各学級が、1学期に1単元、主体的な学びを仕組む取組シートを作成する。 ・児童に学習の「見直し」を持たせ、授業の振り返りを書かせたり、振り返りを交流させたりする。				
					児童の課題を分析し、改善を図る。	単元テスト（国語科「思考・判断・表現」、算数科「知識・技能」観点において、60%未満の児童を低学年6%、中学年9%、高学年12%未満にする。【単元テスト】	□単元テスト（国語科「思考・判断・表現」観点において、60%未満の児童は、低学年1.9%、中学年16.1%、高学年1.9%。算数科「知識・技能」観点において、60%未満の児童は、低学年0.9%、中学年5.7%、高学年6.7%学校全体での達成率83.3%。 □学力テストの分析で、児童のつまずきを把握し、授業に取り入れた。	3	2	・中学年の課題をふまえ全校で色々な説明文や物語に出会わせたり、読み方のスキルや答え方のスキルを身に付けさせたりする。 ・児童のつまずきを把握し、学年間で手だてを交流する。				
1	主体性・積極性の育成	★	継続	自ら課題を発見し、課題解決に向けて努力する児童を育てる【課】 【主】	月1回OPT（大津野プロジェクトタイム）を実施し、つけたい力を掲示する。全校集会及び異学年での集会を児童の実態に応じて設定する。	学級カレダーチャートにおける「目標達成力」を85%以上にする。【毎月のレーダーチャート】	□学級カレダーチャートにおける「目標達成力」81%（16学級中13学級達成）。 □OPTを実施し、つけたい力を掲示、17学級中17学級が達成、100%。	3	2	・OPTの実施方法を交流し、統一した取り組みになるようにする。 ・つけたい力を考える視点を持たせることで、話し合い質を向上させ、目標がより具体的になるようにする。				
1	たくましい体の育成		継続	めあてをもち、自ら進んで健康・体力向上を図る児童を育てる【課】 【主】	課題のある種目について学期ごとの重点項目を設定し、体育授業の改善に取り組む。	新体力テストにおける県平均以上の種目率を65%以上にする。【体力テスト】	11月実施予定							

2	教職員の元気	★	見直し	業務改善の実施と仕事のスピード化・効率化を意識した職務の遂行【課】【主】	週・月ごとの計画を早めに立て、見直しを持って職務を遂行する。	時間外勤務時間の平均45時間未満の月100%にする。 年次有給休暇5日以上を計画的に取得する。	□施錠をする教頭以外の時間外勤務時間の平均45時間未満の達成率は100%。 □年次有給休暇は夏季休業が23日しかなかったため、2名しか5日以上取得できておらず平均は1.9日である。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 月の中間時点で時間外勤務時間の確認させ優先順位を決めて業務を行なっていく。 年次有給休暇は長期休業等に計画的に取得できるように計画させる。 				
3	保護者・地域から信頼される学校の創造		継続	地域に愛着をもち、地域貢献する児童を育てる【共】	年2回以上地域の人と触れ合う授業をつくる。	「大津野が好き」といえる児童を85%以上にする。【児童アンケート】	□「大津野が好き」といえる児童、学校平均96.2%（16学級中16学級が達成100%） □年2回以上地域の人と触れ合う授業をつくる、16.6%（6学年中1学年が達成）	2	3	<ul style="list-style-type: none"> CMデーを毎月行い、カリキュラム・マップで1年間を見通して、地域の人や教材とふれあう授業を効果的に計画したり、見直したりする。 				

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。